

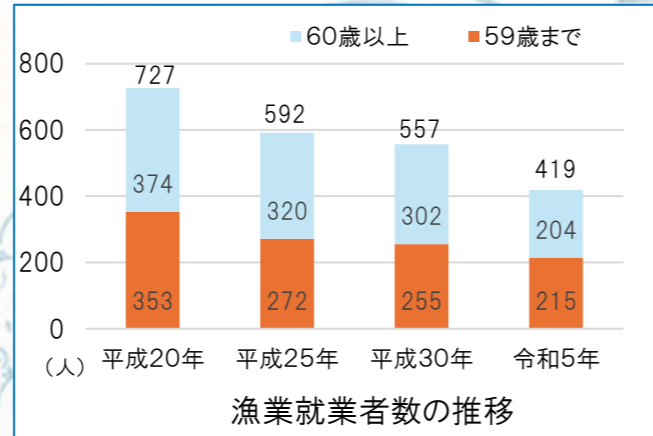
## 現状と課題・前期計画の検証

### 1 本町水産業を取り巻く現状

- ・漁業就業者数の減少と高齢化
- ・沿岸自営漁業の後継者不足
- ・資源減少、海水温上昇、磯焼け進行
- ・流通・加工の弱さと魚価の伸び悩み

これらは短時間で解決できる課題ではなく、構造的かつ中長期的な対応が求められています。

○漁業就業者数の推移（「漁業センサス」より）



平成20年:727人 → 令和5年:419人

### 2 前期計画の成果と課題

#### 【成果】

- ・輸送費支援の継続
- ・地産地消の取組
- ・放流事業の実施
- ・新規就業者確保など

#### 【課題】

- ・ブランド化の遅れ
- ・加工・6次産業化の定着不足
- ・担い手確保の仕組みづくり
- ・磯焼け対策など

前期計画では、輸送費支援や地産地消、放流事業などに一定の成果が見られましたが、ブランド化や6次産業化、担い手確保の仕組みづくりには引き続き課題が残りました。これらを踏まえ、関係者や町民の意見を反映し、10年先を見据えた計画として本計画を策定しました。

第2期隠岐の島町  
水産業振興計画【概要版】

令和8年3月

発行：隠岐の島町  
住所：〒685-8585 島根県隠岐郡隠岐の島町下西78番地2  
電話：08512-2-8563  
問い合わせ先：隠岐の島町役場 水産振興室

2026-2035



# 第2期 隠岐の島町水産業振興計画

～人・海・暮らしがつながる、地域循環型の持続可能な水産業～

【概要版】

### 1 計画の位置付け

本計画は、「第2次 隠岐の島町総合振興計画」に示された将来像や基本的な考え方を、水産分野で具体的な取組として整理した分野別計画です。町全体の方針を踏まえながら、水産業を本町の基幹産業の一つとして将来につなげていくための方向性を示しています。

第2次隠岐の島町総合振興計画  
第2期隠岐の島町水産業振興計画

将来ビジョン  
5つの重点施策

### 2 計画期間と役割

前期計画で行ってきた取組の成果や課題を振り返り、漁業を取り巻く環境の変化を踏まえたうえで、今後10年間に本町水産業が目指す姿と、その実現に向けた取組の流れを分かりやすく示した計画です。

計画期間(令和8年4月1日から令和18年3月31日)10年間

# 将来ビジョン

～人・海・暮らしがつながる、地域循環型の持続可能な水産業～

これからの隠岐の島町の水産業は、海の恵みを次の世代へ大切につなぎながら、人が集い、暮らしの中に広がる「町の力」として発展していくことを目指します。水産業を「獲るだけの産業」ではなく、食や観光、文化と結び付いた地域循環型の産業として育てていきます。

「人」が根づく水産地域の形成  
島内の若者が学び、働き、暮らし続けられる環境を整え、水産業に定着する担い手を育成します。

「海」と共に生きる持続的漁業の実現  
調査やデータを活かして資源管理を進め、磯焼け対策などにより、自然と調和した持続的な漁業を目指します。

「暮らし」とともにある地域産業の構築  
地魚給食や観光、加工と連動し、水産物の価値が町内で循環する地域産業を育てていきます。



## 5つの重点施策・計画の特徴

### (1) 担い手の確保・育成と働き方改革

新規就業者支援や住宅・生活支援、水産教育の充実を進め、島で学び、島で働き続けられる環境を整えます

- ・魅力発信・研修・独立支援・住居
- ・定着支援・水産教育推進・省力化支援
- ・多様な人材受入

- ・新規就業者数 年間7人以上
- ・沿岸自営漁業者確保 年間1人以上など

### (2) 地域内流通・加工・ブランド化の再構築

地魚の利用を広げ、観光や飲食と連携しながら、加工やブランドづくり、物流の改善を進め、魚の価値向上と販路拡大を目指します

- ・地魚利用拡大・加工支援
- ・ブランド強化・流通改善・魚価向上
- ・6次産業化育成

- ・給食での魚食普及 年間1回以上
- ・ブランド認証品 累計5品以上など

### (3) 資源管理と海洋環境への対応力強化

藻場の状況確認や放流の効果検証を進め、温暖化や磯焼け、密漁、海洋ごみなどの課題に対応しながら、将来につながる漁場環境を守ります

- ・藻場再生・資源調査・放流見直し
- ・温暖化対策・海洋ごみ対策
- ・研究連携強化

- ・海洋モニタリング調査 年間1回以上
- ・稚魚放流 年間30万匹以上など

### (4) 産官学連携と研究成果の地域還元

隠岐水産高校や島根大学と連携し、研究や技術活用、人材育成を進め、成果を地域で共有し課題解決に取り組みます

- ・共同研究推進・成果現場還元
- ・技術導入活用・新商品開発

- ・共同研究 年間1件以上
- ・研究成果還元年間1件以上など

### (5) 漁業種類に応じた重点施策

各漁業の特性に応じて、省力化や生産安定、担い手確保を進めます。設備更新や体制整備、PR強化を組み合わせ、持続可能な生産体制を整えます

- ・船体更新・省力化・経営支援
- ・単価向上・藻場回復・生産安定
- ・人材確保・販路拡大・安全対策

- ・各漁業種類における省力化・設備更新等の取組: 累計1件以上
- ・廃船・漁具の譲渡等に関する情報交換・情報発信 年間1回以上など

### 目標値

### ○実行型計画としての特徴

本計画は、計画を作って終わりにするのではなく、毎年度、取組の進み具合を確認しながら進めていく実行型の計画です。状況の変化に応じて内容を見直し、現場の実情に合った形で施策を進めていきます。

### ○計画の進め方

- ・目標値により毎年度進捗を確認
- ・作って終わりではない計画
- ・状況に応じて見直しを実施



- ①計画: 方向性と取り組み整理
- ②実行: 取り組み実施
- ③検証: 進み具合を毎年確認
- ④見直し: 必要に応じて改善